

指導者暴力根絶に向けて

岩手県ミニバスケットボール連盟

1 はじめに

全国で後を絶たない指導者暴力の事例。ここ岩手も例外ではないかと思えます。

様々な報道により、直接的な暴力は影を潜めているものの、暴言に関しては、発達段階途中である子どもたちにとって、「そこまで断定的・高圧的でいいのか。」「その物言いがふさわしいものなのか。」「万人の目から見て認められるものなのか。」と、いろいろ思われます。

ミニバスケットボールの理念である「友情・ほほえみ・フェアプレー」は、勝利を最優先に求めているものではありません。「ミニバスケットボール5つの心得（指導者のための5つの心得）」には次のように示されています。

① 敗戦はあなたの責任です

敗戦をプレイヤーや審判のせいにする事なく、冷静に課題を見つけましょう。向上心を忘れず謙虚な気持ちで指導にあたきましょう。

② 体罰，言葉の暴力は厳禁です

全指導者で、体罰・暴言を根絶しましょう。指導者同士で注意し合える関係づくりに努めましょう。

③ 子どもの将来を考えた指導に心がけましょう

小学生の時期は、頭も体もおおいに成長します。技術に加え、適切な判断力や行動力、マナーを指導しましょう。

④ 選手をたくさん褒めましょう

プレイヤーは不安や緊張の中でプレイしています。結果ばかりに注目するのではなく、何かにトライしたことを褒めてあげましょう。

⑤ 審判のレベルアップに貢献しましょう

Good Minibas には審判の育成が不可欠です。指導者がルールをよく学習し、審判活動にも進んで取り組みましょう。

私たちが心がけなければならないのは、バスケットボールを教えることではなく、バスケットボールを通して教えることなのだと思います。将来を担う子どもたちを尊敬心をもって育てていくことなのだと思います。

成長期の子どもたちにとっては、成功することも失敗することも、また、勝つことも負けることも大切な経験になります。指導に携わる方々の考え方により様々あるかと思いますが、性急に結果を求めることや勝利を求めるあまり、熱くなりすぎ冷静さを失ってしまうことは避けなければならないということです。難しいことではあり

ますが、常に自分を客観視し、例えば、自分のお孫さんを見にいらっしやっているおじいさんおばあさんがどう思われるのか…、そこまで思いを馳せることは指導者として必要な資質なのだと思います。

岩手のすべての指導者の方々が、子どもたちの健全な発育をこそ第一に考え、そのための指導に力を注いでいただけることを願ってやみません。

2 発生事例と今後の対応

残念ながら、今年度、岩手から日本ミニ連に対して2件の告発文が送付されました。内容は、暴言、体罰、子どもへの過度の負担、といったものでした。いずれも、即時に調査し、日本ミニ連に報告したわけですが、指導者、保護者、周辺の人たちへの聴き取りから見えてきたことは、それぞれの受け取り方、感じ方に相違がみられるということでした。事実かどうかの確認は今後の調査の進展によりますが、事例の客観的な見方・感じ方の共有はしていかなければならないと感じました。

この件につきましては、交歓大会時に行われる理事会の席におきまして、各地区理事へ学習会を行い、各地区指導者講習会の実施への運びとしたいと思います。ガバナンスによる内部規程（日本ミニバスケットボール連盟倫理規定）、JBA基本規程（第10章懲罰）など、実際起こってしまった場合、どのような処分が下されるのか、私たちが知っておくべき内容として周知していきたいと思っております。それを踏まえた指導であってほしいと考えております。

3 おわりに

時間、労力、金銭的なものも含め、様々なことを費やして、日々、子どもたちへの指導に情熱を傾ける指導者であります。その指導者が、社会から称賛され、尊敬される環境を常に作りたいと考えております。併せて、スポーツ団体の発展、それに伴う社会的責任は日増しに高まり、たとえボランティアであってもガバナンス強化を図っていかなければ、そのスポーツは何らかの事案が発生した場合、衰退の危機にさらされます。一指導者の軽率な行動により、社会的な信頼が揺らぐことのないよう、私たちは、意思統一を図り、ミニバスの発展に関わっていかなければなりません。どうぞ、ご協力よろしくお願い致します。

【問い合わせ】

岩手県ミニバスケットボール連盟

理事長 藤澤周一

携帯:090-9638-1888

Mail:fuji-s@pon.waiwai-net.ne.jp